

トリック・ベイビー 罠

作者の通名はアイスバーグ(氷山)でも、流るるように熱い一冊だ。プロの詐欺師が生い立ちから内幕を語る一代記。四十年前の作品で、さすがに手口の古さは若干あるけれど、すべての細部が「生き」ている。

作者はシカゴのスラム育ちの元ポン引き。自伝的長編『ピンプ』が数年といえる。ば、本書は、正反対の愛を求める苦しみの物語だといえる。

プロの詐欺師の一代記

前に紹介された。『ピンプ』が息詰まるような憎しみの物語だったとすれば、二人の主人公。白い肌の混血黒人トリック・ベイビーと彼に詐欺のA B

Cを伝授し相棒に育てる初老の男ブルー。ブルーの仇名は鋼鉄のように黒光りする肌の色からくる。二人は白人黒人のコンビを装って、カモを引っかける。彼らの行状と犯罪報告は物語のおモチの顔だ。主人公の肌の色のように外側の見せかけ。その内奥

にこそ、作者の真に訴えかけた叫びがある。トリック・ベイビーは、彼を白人と思いこむ女に惚れるが、女はきわめつきの人種差別主義者だった。老いたブルーも密告によって身を滅ぼす。彼らの求める愛に込めるものは、手ひどい裏切りだけなのだった。小林雅明訳。(野崎六助)

ブラック・ノイズ

ヒップホップ・カルチャーがこれだけ浸透した今、たとえば卒業論文でラップの社会的役割を議論する学生は多数いる。そんなとき困るのは、

ヒップホップの三つの要素(ラップ、グラフィティ、ブレイクダンス)について個別にしかも学術的に研究した本が、あまり翻訳されていないことだ。もちろん幾つかあることはあるが、これ／＼という一冊がない。

本書はそんな本。決定版といっている。原著が刊行された一九九四年当時、類書はなかったと推測される。その意味では、ヒップホップ研究の金字塔であり原点でもある。

ヒップホップ3要素を説く

この視点、な視点、ジュー、ラップ、五年の、花開い、去年、ヒップホップ、という、性差、か、擁護、らしい、で、は、す、で、は、世、の、ラ、だ、ら、う

野崎六助
評論家

トリック・ベイビー 罠
アイスバーグ・スリム著



(ブルース・インターアク
ションズ・一、九〇〇円)

砂漠の狐を狩れ
スティーヴン・プレスフィールド著

第二次大戦秘史を描く感動の正調冒険小説。勇気・献身・忍耐。苛酷な自然への挑戦。今どきの戦争ものにはないロマンが息づく。こういう人間讃歌もアリか。村上和久訳。(新潮文庫・781円)

入らずの森
宇佐美まこと著

ネンキンの呪い。金のほうではなく植物。粘菌だ。土俗ホラーに怪物系をプラス。誰もが持つ負のエネルギーを養分にする怪物。タタリの元は自分? 後半の疾走感がいい。(祥伝社・1500円)

(★★★★★これを読まなくては損をする、★★★★★読みこたえたつぶり、お薦め)
(★★★★★読みこたえあり、★★価格の価値はあり、★話題作だが、ピンとこなかった)

中沢孝夫
福井県立大教授

「正しいこと」をする技術
増田英次著

大切なことは「法律に違反しているかいないか」という話ではなく、消費者との信頼関係である。お客にメリットがないのを知りながらのビジネスはいけないのだ。(ダイヤモンド社・1500円)

上司の教科書
石山恒貴著

「傾聴」していることを伝えるためには、ときおり相手の話を要約して相づちをうったりすることが必要だ。部下のキャリアアップと管理者としての自分を成長させる処方箋。(洋泉社新書・760円)

失われた〈20年〉
朝日新聞「変転経済」取材班編



(岩波書店・一、九〇〇円)

失われた〈20年〉

やっと「谷」から抜け出せそうだと、と思い始めるとまた新しい「谷」に投げ込まれるのが、ここ二十年の日本経済だった。バブルが崩壊し五年経って、九五年頃から回復しはじめた景気は、九七年の橋本内閣の改変不

誤の歴史

一、バブルを振り、ちが失、を改め、とも、新、アと、指、摘、の、歴、史